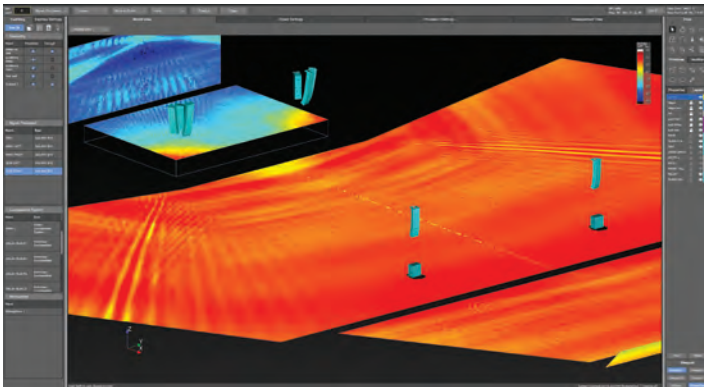
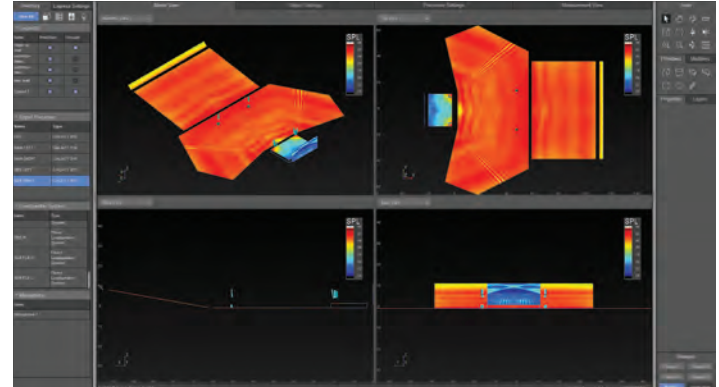


MAPP 3D™ システムデザインと予測ツール



Model View—Single Viewport



Model View—Multiple Viewports

MAPP 3D

Meyer Soundの新たな使いやすいMAPP 3 Dソフトウェアは、パワフルな多目的サウンドシステム設計ツールで、正確で高精度な音響エネルギー分布予測を3次元の音場で行えます。MAPP 3 Dが、Galileo ® GALAXYネットワークプラットフォームとCompass ® コントロールソフトウェアと完全に統合したことで、最初のシステム設計から、予測、最適化、制御までのシームレスなワークフローが実現します。

MAPP 3 Dは、次の機能を備えた合理化されたインターフェースを提供します。

- オーディエンスエリアを定義する完全なシステムレイアウトを複数ビューで作成でき、複雑な建物にも対応
- 内包描画プログラムや様々な従来型ステージ形状を表す設計オブジェクトなどの一連の精巧なデザインツールを使用し、三次元での設計と改良
- 予測サーフェスでのアンカーモデルとして、また予測データをわかり易くする視覚的な補助として、詳細な会場情報を含むSketchUp(.SKP)およびAutoCAD (.DXF)ファイルの読み込みが可能
- 内蔵されたスナップツールを使用して読み込まれた図面から予測平面を素早く作成したり、直線または角度の押し出ツールを使用して大規模な会場での対称断面図を効率的に作成
- MAPP 3 Dで予測した複雑なシステムの包括的なパフォーマンスパラメーターを最適化し、結果として得たEQとフィルター設定を複数のGALAXYプロセッサに直接読み込み可能
- GALAXYプロセッサの出力チャンネル設定をリアルタイムで仮想または実際のGALAXYユニットと同期させ、システムのアライメント時の現場での変更を予測
- MAPP 3 DまたはCompassのいずれかを使用して出力処理を変更でき、リアルタイム検証が有効
- 予測とシステムチューニングが一つのワークフローに

MAPP 3 Dの予測精度の鍵となるのは、Meyer Soundの徹底したスピーカー測定のデータベースです。各スピーカーの性能予測は、Meyer Soundの無響室で行われた3次元の65,000を超える1/48オクターブバンド測定に基づいています。並外れた一貫性を持つMeyer Soundのスピーカーは、性能の均一性のために非常に厳しい許容誤差に合わせて製造されており、MAPP 3Dでの予測が実際の性能と正確に一致することを保証しています。

MAPP 3Dは、セルフパワードスピーカーを使用し、外部アンプに関係して起こる変動をなくすという本来の利点を生かしています。これらの変動には、アンプの種類、アンプの出力構成、スピーカーケーブルの長さなどが含まれます。他社の予測ツールでは、こうした要因が複雑さを生み、誤差が発生する可能性があります。

MAPP 3 Dの新機能には、傾斜サブウーファーアレイ構成、オートスプレイ、評価オプション (Measurement View)、テスト信号サポート (M-Noise) などがあります。

傾斜サブウーファーアレイ構成ツール

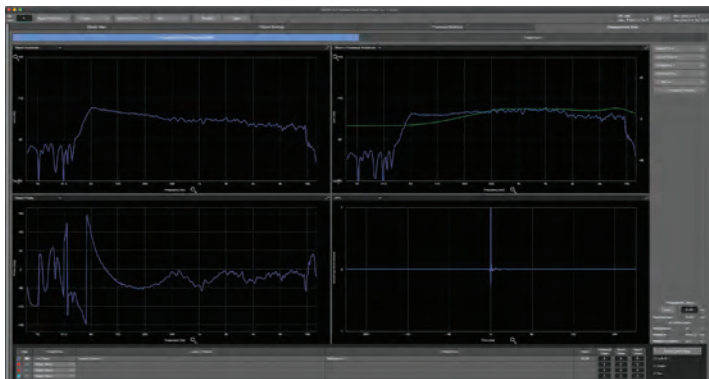
指向性アレイは、複数の低域ユニットを同一平面上に配置し (グラウンドスタックまたはフライングアレイ)、一部のユニットを反対方向に向けます。反転されたスピーカーの出力は、通常はユニットの後ろ側で他のスピーカーの出力をキャンセルし、同時に前方に向けられたSPLを増加させます。MAPP 3D傾斜アレイ構成ツールを使用すると、反転したスピーカーに正しいディレイを自動的に割り当てる傾斜サブウーファーアレイオブジェクトを作成できます。これらのスピーカーは一度音場に挿入されると、傾斜サブウーファーアレイのオブジェクトのまま保持することも、オブジェクトをフライングスピーカシステムに変換することも出来ます。

フライングスピーカーシステムのためのマルチレベルオートスプレイ

オートスプレイ機能は、フライングスピーカーシステムに均一な距離範囲のスプレイ角度を提供します。スプレイ角度を決定するための開始点を提供し、追加の構成パラメーターで後から微調整をする機能があります。オートスプレイウィンドウでは、ユーザーはアレイの位置を変更して予測を実行できるため、システム設計が容易になります。また、単一のアレイから複数の予測平面にわたるスプレイ角度を計算する機能も含まれています。

測定ビュー

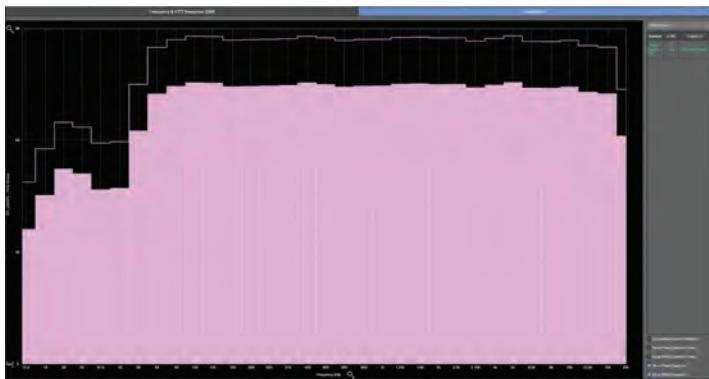
MAPP 3Dの測定ビュー機能では、設計の広帯域応答と最大音響出力を評価するために、仮想マイクを方策に従った配置で使用します。デフォルトのビューには、4つのグラフが表示されます。これには、結果振幅（プロセッサ入力とマイク間）、結果位相（プロセッサ入力とマイク間）、ルームとプロセッサの振幅（プロセッサ入力とマイク間、およびプロセッサ出力と同一のプロットに表示されたマイク間）、IFFT（信号発生器とマイクの差）の4つの測定に対する伝達関数が含まれます。



Measurement View—IFFT and Frequency Response

M-Noiseテスト信号サポート

従来のテスト信号に加えて、MAPP 3Dはスピーカの音楽の最大リニアSPLを測定するための新たな業界標準であるM-Noiseをサポートしています。音楽の動的特性を効果的にエミュレートする数学的に導出されたテスト信号であるM-Noiseは、他の既存の方法よりもはるかに正確な最大リニアピークSPLの測定を可能にします。MAPP 3Dのヘッドルーム測定ビューでは、スピーカのヘッドルーム能力をより明確に示すために、M-NoiseとB-Noiseの両方を使用してヘッドルームに関する情報を表示します。正確なヘッドルーム予測により、システムを過剰設計する傾向を軽減し、コストを削減します。これらのトレースの保存と呼び出しの機能は、システム設計の検証をさらにサポートします。



Measurement View—Headroom

追加機能

追加の機能は次のとおりです。

- ユーザーコミュニティの要求に応じたオフライン予測（予測にインターネット接続は不要）
- 実際の最大SPLまたは減衰予測
- 最大消費電力の算出
- 調整可能なジェネレーターゲインと信号タイプ
- スピーカー、プロセッサ、ジオメトリの編集速度の向上
- オン/オフの切り替えでワークフローを高速化できるレイヤーを備えた高解像度グラフィックス
- スピーカーシステムレポートとレビュー用の一覧表のPDF出力
- MacOSおよびWindowsの最新バージョンのオペレーティングシステムとの互換性

全ての機能とMeyer Soundスピーカー製品のリストについては、[Meyer Sound Webサイト](http://www.meyersound.com)をご参照ください。